

令和7年度第2回青谷地域振興未来会議 議事概要

日時：令和7年5月29日（木）午後3時00分～5時00分

会場：青谷町総合支所 第1，2会議室

【出席委員】

青木綾、井上智朗、浦島考雄、大谷 茜、小谷峻一、斎藤智範、田内伸一、棚田美紀雄、長谷川優、浜野幸子、山田由理子

【欠席委員】

秋田典昭

【事務局】

<青谷町総合支所>

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、山田地域振興課課長補佐

<都市企画課>

三谷都市企画課主査兼都市計画係長

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 田内会長
- 3 議題

【報告事項】

- (1) 景観計画の改定について (資料1)
- (2) 公共施設の再配置について (資料2)

【協議事項】

- (1) 未来プラン①活力ある地場産業の創出について (資料3)
 - (2) 未来プラン②地域資源を活用した観光振興について (資料4)
 - (3) 委員提案による課題検討について (資料5)
- 4 その他
 - ・青谷駅つかい隊について (資料6)

5 閉会

◎議事概要

<報告事項>

(1) 景観計画の改定についてについて

事務局より説明

前回の未来会議で提案いただいた重点区域の候補地を検討した結果、いずれの地区も開発行為などによって景観が阻害される見込みが少ないことから、現時点で重点区域の指定は難しいものと考えている。

しかしながら、提案のあった地区は特徴のある景観を有していることから、建築工事などの開発を制限する重点区域の位置づけではなく、良好な景観を有する場所として、眺望景観を保全する取組などとして、計画への位置づけを検討したい。

なお、重点区域の追加は今回の計画の改定において必須ではないが、今後の社会環境の変化などによって景観を保全訂正すべき地域があれば随時、景観計画を改定し、重点区域に追加するなどとして取り組んでいく。

【委員】計画の改定の話が出た段階で区域を指定したいと言っても遅いのではないか。

【事務局】まちづくりの取組が地元でなされているかということが想定される。例

えば鹿野の城下町は町内会が協定を作って、その協定に基づいて個人が家の修繕や屋根瓦の色の統一を図っている。開発行為だけでなくこれらの取組が積極的になされているところについても重点区域の設定をしている。

【委員】開発行為はどういうものが該当するのか。

【事務局】現在ある綺麗な街並みのすぐ横で、大きな建築物が建築されるというケー

スが多い。そのことで景観が壊れることを、街並みに合う色合いにするなど景観の保全維持するもの。

【委員】今後地域内で「ここは残したい」などということがあれば、支所に提案や要望をしていけば良いか。

【事務局】それで良い。

【委員】 開発行為より放置によって破壊されていくことの方が多いが、その対策はどうなっているのか。

【事務局】 空き家が景観を阻害しているという意見はあるが、空き家に対しての景観政策の補助金も無く、取組はなかなか難しいところ。空き家の修繕や草刈りなどのコストが景観計画の中のソフトの対策として入れていくことも期待したい。

(2) 公共施設の再配置について

事務局より説明

公共施設の施設運用は全国の自治体共通の課題となっている。

鳥取市では基本方針として3つの目標を挙げており、再配置推進委員会の意見書も踏まえ、「縮充」というキーワードでサービスを維持しつつ、施設を複合化、多機能化して効率的な運用を目指しているところ。

今後の予定として、中学校区ごとに住民ワークショップを開催、地域全体で施設のあり方を議論する。また、別途個別に施設のあり方を検討する会も行われる。

【委員】 再配置に向けてタイムスケジュール的なものはあるか。

【事務局】 いつまでという具体的な期限は無いが、大まかに40年間で施設総量の約29%を削減するとしている。いきなり減らすわけではなく、市民とのワークショップでの意見を聞きながら進めるので、ワークショップの出席者募集の際には積極的に参加していただきたい。

【委員】 一覧表では施設の状況が伝わりにくいので、支所管内の地図に位置や周辺人口などの情報を落とし込んで、見てすぐイメージできる資料があると良い。住民ワークショップの時にはその様な資料をお願いします。

【委員】 閉鎖中となっている施設は、どういう状況なのか。

【事務局】 解体待ちの施設や、倉庫として利用している施設などがある。

【委員】 ワークショップで議論するために、施設の耐用年数や利用頻度、活用状況などの情報が必要だと思う。

【事務局】ワークショップで問われるのは、利用状況や、真に必要かどうかという点。

【委員】公民館も体育館も、40年と考えると本当に人口減の中でこれだけの数があるのかとなるが、一方で利用頻度とは別に、どうしてもそこでしか出来ないことがあったり、災害時の避難所であったりすれば残さないといけないし、情報をしっかり集めて検討しないとけない。

<協議事項>

(1) 未来プラン①活力ある地場産業の創出について

事務局より説明

伝統産業（因州和紙）の活性化は、鳥取市のふるさと納税返礼品に因州和紙製品を登録し、情報発信と消費拡大に取り組む。

産地ブランド化では定置網朝市と連携したツアーの造成を行う。

地場産品の販路拡大については、あおいち出店者ネットワークで朝市や史跡公園など、人が集まる催しにタイアップして出店するなどの連携販売に取り組む。

地元企業との協働による活性化は、鳥取森田跡地の利活用について周辺の事業者と協議するなどの取組を進める。

【委員】気高町では特産品を東京新橋の鳥取岡山アンテナショップに週末2日間ブースを出して売った。域外、中央で売る取組も視野に入れた方が良い。

【事務局】以前は大阪池田市へ都市交流として物販に行っていた経緯がある。県外への物販も販売品の確保や出店者の希望があれば検討したい。

【委員】今後はネットを活用した販売や宣伝が重要になってくる。特に若い層はもうお店に行かずにネットで物を買っている。また、旅行など日常的なタイミングでもネット・SNSを通じて情報収集することが多いので、そういう人に向けてアピールすることで将来持続的な収益が見込めると思う。地域内だけでなく、県外・海外に向けて商売することで外貨の獲得が出来、持続的な地場産業の創出ができると思う。

【事務局】本市でもネット販売では「とっとり市」というECサイトを委託で運営し

ている。ネット販売は大手が強い中で、どれだけ強みを出してPRできるかという点もあるし、既に事業者で直販されているケースもあるので、そういったネット販売を拡充していくことに対しての支援の方法を研究していきたい。

【委員】朝市の魚を生のままだけでなく、麴漬けや鮭とば、ジャーキーなどの加工品にして販売すれば、持ち帰って楽しむことが出来るので、販売期間を延ばす売り方も考えてみては。

【事務局】加工品をするには誰かが買って加工する必要があるのですが、そこは行政はなれないが、取り組みたいという人がいれば支援できる。また、青谷ようこそ館が朝市の魚を購入・調理提供して好評だったので、その規模を広げていけたらと考えている。

【委員】農業についての施策が少ない。コメは高いが青谷からは田んぼが減っているという状況が起きている。基盤整備や施設整備、担い手不足対応も入れていただきたい。

【事務局】農業は既に販路を持っていたり、後継者育成の窓口を本課がやっている等中々支所に情報が入りにくい状況だが、情報を集めて何か支援できることがないか検討していきたい。

【委員】鳥取森田は現在どういう状況か。

【事務局】買い手が見つらず所有者不在の状況。裁判所へ申し立てをすれば取得できる。

【委員】市が買い取りしないのか。

【事務局】事業者が買い取りできないか検討している。取得価格はそこまで高額では無いが、前事業者が残している資産が多くあり、その処分にかんりのコストがかかるということで、手が挙がらない状況となっている。

【委員】企業誘致しないのか。

【事務局】既に行っているが、前述の理由もあり中々繋がっていない。

【委員】あそこは工業用水道もあるので、工業用水の活用もセットで考えた方が良いでしょう。

【委員】企業誘致以外にも、地域での活用を検討しては。収益化して、そこから維持費用を捻出する。

【委員】大きな問題なのですぐにまとまるものではないが、委員の任期中に色々検討

を進めたい。

【委員】農業をする人が少ないから、人夫さんが本当にいない。これが死活問題で、年間通して一時期にすごく人手が必要だが、そこで人が集まらないから、良いものができなかったり、同じ面積作ってもできる量が減ってしまうという問題を抱えている。人夫さんも高齢化して、畑に上がる交通手段も無くて送迎が必要とか、そういう問題に振り回されている家は多い。そういう人夫さんを割り振りできる部署ができないか農業だけではなく、各方面の人材的サポートがあれば助かる人は沢山いると思う。早期退職とか定年退職ぐらいでまだまだ動けて少し時間もあるような人を繋ぐ仕組。

【委員】退職者以外でも、大学生は学校内での学びは豊富だが、その学びを実際に生かす場がないということで、実際に畑とか田んぼとかに出るっていうニーズはあると思う。大学生と、可能だったら高校生とかを巻き込めるような中間サポート組織みたいなのがあるとお互いに win-win になる。学生としてもお金が稼げるバイト先があるっていうのはすごい貴重なことだし、それで鳥取のことを好きになってくれた県外の学生がいれば将来的に鳥取に就職とかっていうこともあると思うんで、ちょっと活力ある地場産業を広く捉えたときに「担い手」として高校生・大学生を期間的に参加することは、学校があるんで週末とか夏休みだけになるかもしれないが、そういうプロジェクトチームが立ち上がると面白い。

【委員】それに近いのはシルバー人材センターがあるが、時間給が安いし、あまり高齢者でも厳しい。それよりも日当として十分な額を払うことで、十分な労働力を持った方が集まり、良ければ何度でも通ってもらえる形が望ましい。

(2) 未来プラン②地域資源を活用した観光振興について

事務局より説明

かみじち史跡公園への住民参画では、史跡公園周辺の環境美化を地域住民参加により進めるアダプトプログラムに取り組む。

伝統文化の保護継承では、輝く中山間地域創出事業で夏泊の海女の復活とイガイ飯のPR、郷土芸能の保存継承活動を支援していく。

観光受入れ体制の整理については、レンタサイクル事業の支援、青谷町観光協会でのweb、ガイド、物販などを含めた体制作りを支援する。

観光PRでは観光協会による情報発信を支援するほか、西いなば地域の観光パンフレット作成を行う。

【委員】 レンタサイクルは今町内で何台あるのか。

【事務局】 桂商会在が10台電動アシスト付き自転車、ようこそ館が4台メンテナンスを管理している。

【委員】 レンタサイクルの推進ならサイクルイベントを実施してはどうか。ロードバイクではなく、ママチャリでエントリーする緩い雰囲気イベントで、自転車の無い方にもレンタサイクルを提供できる形が良い。

【委員】 サイクルマップはあるのか。

【事務局】 海と灯台プロジェクトで作成したマップを町内に配布している。

【委員】 レンタサイクル自体のPRがあまりされていない。10台もあるなら子供と一緒に載って色々なこともできるかと思うので、町外だけでなく町内でも使ってもらえるようPRしては。

【委員】 「青谷体験塾」として町内をレンタサイクルで回り、様々な体験を提供しつつ民泊に宿泊するようなツアーがあれば青谷の魅力が発信できる。

【委員】 鳥取県のファミリーワーケーション事業で夏に月読庵に宿泊しながら史跡公園の弥生体験、和紙工房の紙漉き体験、井手ヶ浜のSUP体験、浦富での洞窟ツアーをセットにした2泊3日のツアーをやる。単独の民泊では親子連れ3組が一杯だが、もっと受け入れのキャパシティを増やせたらと考えている。大山町は大きな宿泊施設があって10組ほどで受けているが、青谷町内にある民泊・ゲストハウスと連携して一緒に企画することも今後考えていきたい。また、民泊事業でなくともまち協や自治会が空き家をリノベーションして宿泊として取り組むことも出来る。

【委員】 青谷は民泊があるが、空き家も多いのでコンドミニウム形式の宿泊があれば、

便利がいい立地で。

【委員】他の地域では市の移住体験施設、お試し住宅があるが、青谷は無い。

【事務局】青谷は提供いただける空き家が無いことと、民泊が充実しているので短期の滞在では民泊を勧めている。

(3) 委員提案による課題検討について

事務局より説明

委員提案についてのスケジュール

今後事務局から提案提出の照会を行う。

【委員】委員からの提案について書式が示されるのか。

【事務局】示させていただく。

4. その他

(1) 趣意書について

提出委員より説明

【委員】無人駅になった青谷駅をみんなで活用できる施設にしよう、みんなが集える駅にしようということで「青谷駅使い隊」という団体を、今年度結成した。青谷駅使い隊はまだ発足したばかりで任意団体的な感じだが、将来的にメンバーを募って鳥取市に要望していくという流れになるので、もし協力いただける方がおられたら声を掛けていただきたい。

【委員】ある意味でのコミュニティデザインというか、今皆さんは外から誰かを呼ぼうと色々やっていて、それも大事だと思うが、そもそも私達住んでる人の元気がないと何もできない。ようこそ館が地元の人たちによって運営されるようになったのはすごくいいこと、ある種のコミュニティデザインのデザイン化された一歩だと思う。そういう意味からもみんなが集えるとか、それから横の連携を持つとか、五つの地区の人たちが一緒になってものを考えると、

青谷全体を考えるとということが活性化しない限りは、どんな商業活動も何もかもできてこないと思う。その一番の起爆剤として、駅が一番ふさわしいと思って作成した。これから先どの様にしていくかは、皆さんのお知恵を借りながら進めたい。今年中に早急にという事ではないが、自分が元気なうちにと考えているので協力をお願いしたい。

【委員】 お金に関わるようなことはやれないのか。

【委員】 販売も入るかもしれないが、基本的にはようこそ館が地場物を売ったりするので、ここは違った方向性で、住み分けはしながら協力し合っていくのが大事だと思う。

【委員】 みんなで青谷駅を使うとして、誰かが食べ物を売りたいとなった時に、それが出来ないということか。

【委員】 最終的に実現したいのは JR 西日本の駅舎、青谷駅が無人駅になっている部分をどうにか鳥取市さんの方にご協力いただいて間に入ってもらって借りるってことなので、そうなったらお金の制限はなくなるので販売とかも可能になる予定。

【事務局】 ご存知の通り青谷駅というのは鳥取市の中にある駅で一番古い駅ということになり、西の方から山陰本線下りてきて、明治 38 年の建物はかなり古いものであり浜村が明治 40 年までかかっているから 2 年間はここが始発駅・終着駅であり、かなりの賑わいだったと思う。そういった賑わいを取り戻すという意味もあり、すごくいい話ではあるが、鳥取市の方でどういったことができるかというのは研究も必要だと思うので、まずは周囲に賛同される方を集めていただければと思う。